# 馬來野生食用植物圖說

馬來軍政監部

Malaya edible wild plants

# 馬來野生食用植物圖説

## 目次

## 灌木



## 蔓草



## 野草

# 序

熱帶といはれる赤道附近の地は天地の惠の最もふかい處であつて、氣候は穩やかに草木は四時斷ゆることなく繁茂生育してゐる。この自然の惠を其の儘に享けて生活してゆくならば人々は恒に豐に安穩幸福であるべき筈である。然るに英、蘭人が、この地を領有して以來、彼等は其の天地自然の惠を巧にを肥彼等の利益のみに利用して、現住民の安寧幸福は更に顧るところがなかつた。卽ち英、蘭人は其の懷す爲には天地の大道、自然の理に反して、土地を農業本來の目的たる生活必需物資（米・雜穀・野菜等の食糧、其の他）の生産に用ふることを全く無視して、農業を企業化することにより、商品（護謨、砂糖、椰子油等）の生産のみに利用したのである。この天理に叛いた非望を逞しくし、目的を達する爲には土地の住民を無智とし痴愚とする施策を以てした。その方法たるや巧を極め、人々の心づかぬうちに、恰も鴉片の如く、甘く娛しい夢に陶醉してゐる間に、いつか人心を蠱毒して、無智・無氣力のものとしてしまつたのである。

東亞の諸民族は全く歐米文化に毒され、その犧牲となり奴隸と墮してしまつてゐたのである、英、蘭が東亞の天地から驅逐されて後、あらはに、その姿を眺めた時、東亞諸民族が、如何に隱微の裡に歐米文化の慘毒をうけてゐたかに驚き、慄然とする。乃ち一朝事あれば、豐饒な土地と惠まれたる氣候とを持ちながら忽ち食糧、衣料にさへ困竭するやうになつてしまつたのである。天理に叛いた結果である。併しながら、元より此の地は天地の惠の豐かな處であるから、すべての人が、再び昔の本來の姿に

戻り、自然の道に順つて生活を建直すならば、食糧の不足も衣料の缺乏も更に嘆くことはない筈である。神は人にものを考へる力、卽ち智惠を授けられてゐる、工夫とは、この智惠を働かせることである。今こそ人々は自から立ち上り努力するべき秋である。すべてを工夫してゆくならば何も恐るゝところはない。如何なる困難に遭遇しても、これを克服することは容易である、

天地自然の理と、その惠を忘れてはならい。自然に皈れ、その秋こそ、本當に東亞の樂土が建設されるのである。

昭和十八年十一月

# 現地人指導の參考

こゝに掲げてある野生食用植物は現地人指導の參考として示したもので一部のものにすぎない。實際食用となるものは、まだ〳〵數限りなくある。彼等は吾々より澤山知つてゐるのである。併し知つてゐるばかりでは役に立たない。要は如何にそれを有効に利用するかといふことである。米ばかりが食物でなく、薯でも雜穀でも立派な食糧であるといふこと、乃ち指導の重点は、そこにおかれたい。序にも記してある如く、歐米文化の惡影響は自然のものを捨て顧みなくなつたところにある。これを昔の姿に戻すことが必要である。指導の參考として馬來語の一文を掲けておく。大要は次の如きものである。

神樣は人類の爲に豐かな生活が出來るやうにと、野にも山にも澤山の惠を與へて下さつた。食る物、着る物又醫藥などである。そして更に大きな惠は人類に智惠を與へて下さつたことである。此の智惠を働かせること卽ち工夫さへすれば野生の動物・植物にしてまづ食べられないといふものはない。木の皮・草の葉からも立派な着物が出來る。病氣を癒す一番よい藥も木の皮・草の根にある。今迄多くの人々は其の適當な食べ方、作り方、使ひ方を知らなかつたり又忘れてしまつたりしてゐたのである。毒になるものでも使ひ方さへよければ藥にもなるものである。又知つてゐても利用しないでゐるものも澤山にある。それは神樣が大きな惠を授けて下さつたのを忘れてゐるもので、神樣の思召に叛くものであるから天罰をうけるのである。神樣の惠を忘れないものは健康で富貴となり、幸福な生活が出來るのである。馬來・スマトラには

昔から米は澤山出來なかつたので、人々は木の果・草・野菜等を多く食べ、自分で着物を織つて生活してゐた。故に其の當時の人々は健康で食る物も着る物も豊富であつた。米を澤山食るやうになつて、いろ〳〵な病氣殊に脚氣のやうなものが出て來たのである。若し人が昔のやうに神樣の授けて下さつたものを其の儘に食べたり用ひたりすれば、復健康となり幸福となるのである。神樣の恵を忘れてはいけない。神の教に叛いてはならない。

# 馬來語序

Kĕtahui-lah wahai kaum Mĕlayu yang di-kasehi, bahwa Tuhan yang bĕrsifat Rahman dan Rahim itu mĕnjadikan Alam ini dĕngan sĕgala yang di-dalam-nya ia-lah sĕmata$^2$ kĕrana muslihat dan faedah kita manusia supaya boleh hidop dĕngan sĕmpurna. Kĕhidupan yang sĕmpurna itu tidak boleh kita dapati mĕlainkan manakala tuboh kita sehat. Dan jalan bagi mĕndapat kĕsehatan itu, ia-lah makanan dan pakaian. Dalam pĕrkara makanan dan pakaian ini Tuhan tĕlah sĕdiakan bĕr-bagai$^2$ jĕnis bĕnda di-dalam hutan, di-padang, di-dalam laut, dan dari udara. Tumboh$^2$-han dan hidop$^2$-pan itu tĕlah tĕrsĕdia bagi kita, dan tiap$^2$ satu daripada-nya ada bĕrguna bagi muslihat kĕhidupan kita, sharat-nya hĕndak-lah kita kĕtahui bagaimana mĕnggunakan-nya dan hĕndak-lah kita bĕrusaha dĕngan pĕngĕtahuan kita. Tuhan tĕlah mĕmberi " akal " kĕpada kita yang dĕngan-nya mĕmpermudahkan kita bĕrikhtiar dan bĕrfikir bagaimana hĕndak mĕnggunakan kĕjadian$^2$ Alam ini bĕrfaedah untok diri kita dan manusia aam-nya.

Lihat-lah, bumi yang tĕrhampar itu sĕdia mĕnunggu bagi di-tanami dan akan mĕnghidopkan sĕkalian tumboh$^2$han yang di-tanam, dan akan mĕnĕrbitkan buah, biji, ubi, daun dan batang, bagi ka-gunaan hidop kita untok di-makan dan pakai, hanya di-kahĕndaki bagi kita mĕngguna-kan akal kita dan usaha kita bagi mĕndapatkan-nya. Apabila akal dan usaha itu di-gunakan dĕngan sunggoh dan sabar, maka bĕnda$^2$ yang berrachun itu pun dapat kita jadikan pĕnawar. Sa-sunggoh-nya Tuhan itu amat kaseh sayang akan kita, oleh itu hendak-lah kita turut pĕrentah-nya dan bĕrhĕnti daripada mĕmbuat apa yang di-larang-nya. Dan lagi hĕndak-lah kita ingat jangan-lah mĕmadakan dĕngan berusaha satu atau dua jĕnis sahaja, dan jangan-lah mĕmikir-kan tiap$^2$ perusahaan itu hanya untok faedah diri sĕndiri sahaja, tĕtapi hĕndak-lah mĕmikirkan dan mĕnchari jalan bagi faedan orang lain bersama; orang yang dĕmikian-lah di-kasehi Tuhan.

Jika kita bĕrpaling kĕpada zaman dato'nenek kita dahulu nĕschaya kita dapati kĕhidopan lĕbeh sehat, lĕbeh ria, dan lĕbeh bahgia, maka yang mĕnyĕbabkan jadi dĕmikian tiada shak lagi yang tĕrbesar sĕkali li-lah kĕrana mĕreka kĕtahui akan hikmat2 Tuhan mĕnjadikan sĕgala bĕnda2 yang di-muka bumi ini dan bĕrusaha mĕreka mĕnggunakan dia bagi muslihat hidop mĕreka. Mĕreka tĕlah mĕnggunakan sĕgala bĕnda2 yang tabi'i di-muka bumi ini, baik daripada tumboh2-han atau hidop2-pan sĕpĕrti sayor2 dan lain2 dĕngan sapĕnoh2-nya, mĕreka tidak mĕmadakan dengan apa yang boleh dapat dĕngan mudah sahaja, oleh itu maka dapat-lah mĕreka sa-pĕnoh2 faedah daripada-nya bagi muslihat ka-sĕmpurnaan hidop mĕreka. Akan tĕtapi kita di-zaman sĕkarang....zaman yang di-katakan tamaddun....tĕlah tĕrlalai dĕngan kĕmodonan hingga lupa kita akan faedah2 yang bĕsar yang kita boleh dapati dĕngan mĕmakai atau mĕnggunakan sĕgala bĕnda2 daripada sayor2-an dan buah2-han yang diterbitkan Tuhan dari bumi ini. Lihat-lah umpama-nya dahulu pĕnyakit biri2 tiada di-kĕnali oleh dato'nenek kita, tĕtapi zaman ini pĕnyakit itu sĕlalu mĕnyĕrang kita; bĕrlaku dĕmikian ia-lah kerana mĕreka yang di-zaman dahulu makan bĕrbagai2 jĕnis sayor, kachang, ubi, kĕladi, dan buah2-han lĕbeh dari mĕmakan bĕras, kĕrana bĕras masa itu tiada mewah sĕpĕrti zaman tamaddun kita hari ini. Oleh sĕbab mewah bĕras dan mudah mĕndapat-nya di-zaman kita hari ini, maka tiada-lah kita bĕrapa indahkan mĕmakan bĕnda2 sayoran dan buah2-han itu. Oleh itu maka tiada sunyi kita daripada di-sĕrangi pĕnyakit. Orang tua2 kita dahulu pandai mĕnggunakan hikmat Tuhan mĕnjadikan sĕgala tumboh2-han di-atas bumi ini, dari puchok hingga kĕpada akar-nya dapat mĕreka gunakan jadi makanan dan hubatan bagi kĕsehatan dan ka-sĕmpurnaan hidop mĕreka.



Pĕndek-nya ingat-lah, bahwa barang siapa yang mĕnggunakan rahmat Tuhan maka kĕpada-nya-lah kĕmbali faedah-nya dĕngan mĕnjadikan badan-nya sehat, hidop-nya selia, ria, dan bahgia. Akan tĕtapi sĕbalek-nya barang siapa yang ĕngkar daripada bĕrbuat dĕmikian maka kĕ-atas-nya-lah ka-murkaan Tuhan akan mĕnimpa dĕngan mĕnjadikan badan-nya sĕnĕntiasa bĕrpĕnyakit dan hidop-nya azab sengsara.

# 圖說緒言

食用植物の多くは古來栽培されて居るが、此等以外に尙ほ野生の草木で食用になるものは澤山ある。又栽培植物の捨てゝ顧みぬ所にも食用し得る部分があり、又特殊の臭や味がある爲に利用されないが適當に所理すると充分食べられるものも少くなく、極端な場合として有毒成分のある植物でも所理仕様によつては利用し得るものもある。香味や舌觸りの良否を別とすると食物の必要成分は結局蛋白質脂肪炭水化物無機鹽類及びビタミン類に歸着するのであり、胃の腑へ入つた後を考へると何んな料理でも大差はない。只消化の難易が問題として殘る丈である。以下食用植物の主なるものに就て說明して見やう。

蛋白質含量の割合に多いものは生長點附近の若い組織である。筍や椰子類の若芽は栽培と野生とを問はず皆良好である。殊に馬來の海岸地帶に多い**ニポン**椰子の若芽などの味は**ココー**椰子以上だと言はれる。禾本科スゲ科及び羊齒類の若芽や若葉も同樣に食用となる。食べられる部分が少くとも多量に繁生するものであると相當な量を採り集めることも左して困難ではない。森の切られた跡によく生へる蕨に似た**コシダ**屬(ルサムブンカワン)濕林の樹木に匐ひ登つて居る**ヤチキノボリシダ**(パクタンジョン)などは其の好例である。

澱粉の多いものは栽培植物の外は割合に少い、然し山の芋や里芋の類には野生でも澱粉の多いのがある。先づ**ヤマノイモ**屬に就て見ると此等には生食すると蘞味(エゴミ)を與へるものが多いが、煮るか燒くかすると其の感じはなくなる。蘞味とは蓚酸石灰の顯微鏡的な細かい針狀結晶束が口內の粘膜に刺さる感じである。此屬中栽培種としてはポコウビ(一名ウビチャン)、ウビアタス・クミリなどがあるが、野生種卽ち自然性(ジネンジョウ)にも食用となるものが多い。例へばワウー、アカークムニャンバヤ、

ウビタコブ、ウビバシル、ウビクロナ、アカータムニャンアントウーなどである。またガドン種は有毒であるが之を薄片に切り數日水洗するか或は更に鹽揉すると毒が拔けて食用になり、トバウビは魚毒となる芋であるが燒くと毒が消え、クドウは數回煮て後燒くと食べられる。「サカイ」族などは此等を凡て食用にして居る。ヤマノイモ屬は根が地中深く入込んで居る種類程毒がないさうである。次にサトイモ（クラヂ）にも深山の種類があり食用になるのとならないのとがあるが、食べられぬものでも澱粉丈を取出すと食用になる。サゴヤシ、グバンヤシの幹が花の出る前に多量の澱粉を含んで居ることはよく知られて居る。少量ながら凡ての養分を具へて居るのは若芽や若葉である。次に圖解してゐるもの丶大部分は夫であるが、此等以外にも尚甚だ多い。此の内には生食されるものもあり、生きた組織には種々の酵素やビタミン類ガ害されずに存在して居るから一層効果的である。又稍强靭なものは成る可く細かに切刻み御飯や其他のものと混食する方がよい、又苦味や强臭を有するものもあるが此等は一回乃至數回煮て且つ良く水洗すると食べられる。尚ほ葉を食用とする場合に澱粉の多いのを望むならば朝よりも夕方に採集する方がよい。

漿果は組織が軟く糖分や有機酸を含んで居り生食し得るものが少くない。酸が多くて齒を侵蝕する樣なものでも砂糖で煮ると食べ易くなり同時に惡臭なども消える。針晶のあるものは前に述べた樣に蘞味を與へるが、此等でも煮るか或は更に砂糖をも加へると大部分緩和される。針晶は單子葉植物と蘘荷科の果實などに多い。

植物の有毒な成分と言ふ内にも種々あるから、凡ての毒が熱其他の處理法で消失するとは限らない。然し有毒でよく知られたヒマ（ジャラブサー）や南洋油桐（ジャラブランダ）の有毒な蛋白質でも高熱で焙ぶると分解して無毒になる。青酸又は其配糖体を含む植物は少くないが、其の著しいクバ[illegible]ンの種子でも碎いて煮て數日水洗し更に煮返へすと配糖体分解酵素は害されてなくなり、又出來た青酸は水に溶け

易いので洗ひ流されて食用になる。タピオカの芋と葉も又薩摩芋の若枝も同様である。タピオカは芋のまゝで食べると硬くてまづいが、之を研子(オロシ)にかけておろし鍋で蒸すと薩摩芋よりも餅よりも粘味になり砂糖醤油で食べると毎朝數ヶ月續けても飽きない。消化もよく御米に優る食品である。

向一株の植物でも其部分や時期により食用と有毒の別を生ずるものもある。例へば**クズイモ**(ブンッワン)は根を食用とするために栽培せられて居り其若い莢(サヤ)も食べられるが、葉と成熟した豆は有毒である。又インゲンの類には豆を生食すると青酸中毒を起すものがある。例へば**アフヒマメ**(カチャンチナ)其他である。此等は採つてから生のまゝで長く置く程青酸の量が増加するが、煮るか又は速く乾燥さして置くと毒が消える。

植物が食用になるか否かは實際經驗した上でなければ的確には言へないが、竹其他の禾本、スゲ、ヤシ、シダ類などは一般に食べられ、其他菊科、シソ科、ヒルガホ科、ナタネ科なども大抵食べられる。又水草は何科を問はず組織が軟く且つ屢々多量に繁生するので食用として好都合である。又植物を傷つけて乳液が出るからとて有毒とは限らない。菊科、ヒルガホ科などには乳液のあるものが多い。

最後に栽培植物でも通常利用せられずに捨てられて居る部分がある。前記**ダピオカ**の若芽、**サツマイモ**の葉柄などの外に、**パパヤ**の若い葉と莖は煮食、其幼髄は生食が出來、**パラゴムノキ**の若葉も煮て食べられ、**バナナ**の果莖の根元の葉鞘に包まれて居る軟い組織も食べられる。又**ドリヤン**、南珂の種子には澱粉が多く、之を煮るか燒くかすると丁度栗の樣な味がする。

以上擧げた植物は其形が一般に知られて居るから圖解を消畧し、餘り知られて居ない主として野生の食用植物から五十種を選び、之を樹木、灌木、蔓草、野草、濕草、水草の順に分けて圖說することゝした、各自の記載では其和名、科名、馬來名、次に生育地の環境、次に莖(根)、葉、花序、花、果實、種子、最後に食用部分と調理法とを擧げた。此等は主として代表的なものゝみで、之に類するものは尙

他に多いから、之を參考として取上げることが出來ると思ふ。

和名の次に付けた馬來名は地方によつても異なり、同一植物で多數の名前を持つて居るものもあるが、代表的と思はるゝ一又は二に限定した。尙ほ馬來に分布して居つても馬來名の見當らぬものが二種あつたから此等には泰及び瓜哇名を附した。

## 1. ヤヘヤマアヲキ（アカネ科）
（ブンクドウ、ムンクドウ）

海岸地帯に多く、時に栽培せられる小喬木

高さ三—八米。葉は對生短柄で托葉があり全緣長楕圓形深綠、花序は多肉長楕圓形で帶綠白色、長さ五—一〇糎。

若葉を生又は煮食す。魚を包みて煮、其まゝ全体を食す。果實も煮食されるが緩下劑となる。



1　ヤヘヤマアヲキ

## 2. マライフトモモ（テンニンクワ科）
（ジャンブーアエルラウ）

廣く栽培せらるゝ樹木。

高さ五—二〇米、枝は密生す。葉は對生短柄長楕圓形全緣で幼時は紫紅色、後深綠となり光澤がある、花序は葉の落ちた腋に生じ數花よりなる。花は暗紅色で雄蕊が多數ある、果實は肥厚した萼を具へ紅色又は白色、徑五—八糎、果肉は軟い

若い紅色の葉と成熟した果實を生食す

附記　フトモモ屬

には多數の種類があり若葉と果實の食用となるものが多い。葉脈には特徴があり各側脈は先端に近く連絡して環狀になつて居る。



2　マライフトモモ

3. ブタイノキ（マメ科）

（ブタイ）

山野ニ自生又ハ植栽セラレル喬木

高さ五－四〇米、葉は互生、二回羽狀複葉で羽片一五－二〇對、各羽片は一五－四六對の小葉片をつける。花序軸は肥大して達磨形をなし花は其表面に密生し先端に近く雌花がある。莢は長さ三五－四〇粍黒色で多少旋曲する。種子は廣卵形。

若葉、花序軸、未熟及成熟種子を生又は煮食す。



3 ブタイノキ

4. サンゴシトウ（マメ科）

（ドウダープ、ドウダプバチッタ）

疎林に生育する中喬木。

高さ五－二五米。葉は互生し長柄托葉あり三小葉からなり、小葉は卵形で中央のものが大きい。花序は枝の上方から數本出で、花は丹紅色、長穗の上方に三箇づつ群生する。莢は彎曲し一〇－一三粍、下半は廣く空虚で上半に一－五の種子がある。花時落葉するものが多い。本來針があるが栽培種には無針のものもある。

葉を煮食す。種子は有毒である。



4 サンゴシトウ

5　タマリンドウ（マメ科）

（アサムジャワ、カユアスム）

稍々乾期ある地方の平野に良く成育する喬木。

高さ一〇—二五米で枝を横に擴げる。羽狀複葉は一〇—一五對の小葉を有す。花序は六—三〇の花をつけ花瓣は黃色で紫線がある。莢の長さ三、五—二〇糎で一—一〇箇の種子があり其間に種肉がある。

若葉、花、若莢の種肉を生又は煮食す。酸味が強い。種子は焙食す。



5　タマリンドウ

6　ギンガウクワン（マメ科）

（プタイジャワ）

大形の木狀灌木で通常垣根又は綠肥用として植栽される。

高さ二—一〇米。葉は互生し、二回羽狀複葉で羽片三—八對、小葉五—一八對。花は球狀に集合し黃白色。莢は扁平で長さ一〇—一八糎、成熟して褐色となり一五—三〇箇の扁平な種子がある。

若葉、花序、莢及び種子を生又は煮食す。成熟種子は焙食す。葉は馬には有毒で脫毛を起す。



6　ギンガウクワン

7　シロゴテフ（マメ科）

（トウリー、グチ）

通常濕陰地に栽培せられる早生短命の小木本。高さ三―一二米。葉は互生し小托葉あり一〇―三〇對の小葉がある。花序は腋生し二―四の大形白色の花を着ける。莢は細長く二〇―五五糎。若葉、若莢及び花を煮食す。



7　シロゴテフ



8　グネモンノキ（グネタ科）

（ムリンジヤウ、ブリンジヤウ）

野生又は植栽せられる潤葉裸子樹高さ五―二二米。横枝輪生し節々肥大す。葉は互生短柄で長楕圓形、深綠、若葉は紅褐色。花には雌雄ある。果實は成熟して丹紅色となる。種子を煮食す。若葉と果被も食用となる。



8　グネモンノキ

9　ネズミヘゴ（ヘゴ科）
（パクガジャー）

山腹多濕の地に生育する木生羊齒。

莖高さ五―一五米、上方に葉を叢生し先端は黄褐色の鱗毛に被はれ次々に新葉を出す。葉は三回羽狀に細裂し下面蠟灰色で胞子を着ける。熱帶山腹には他の種類の木生羊齒も多く、皆食べられる。

若葉を茹でて後調理す。



9　ネズミヘゴ

10　ヒラギギク（キク科）
（ブルンタス）

海岸の陽濕地に多い灌木。

莖は盛んに分枝し一―三米に達する。葉は互生、短柄、倒卵形乃至長楕圓形で上半に鋸齒がある。花序は頂生し頭狀花が多數密生し、管狀花だけで舌狀花がなく、薄紫色。瘦果は白又は帶紅色の冠毛がある。

若い莖葉及花序を煮、細かく切つて副食物に加へる。葉には香氣があり、茶の代用にもする。



10　ヒラギギク

11 シロバナコンロンクワ（アカネ科）

（バレアダプ、ダウンプトウリ）

林縁水際等に生育する斜傾灌木。

莖長二―一五米。葉は對生、短柄、長卵形で有毛。花序は頂生し下方の花の萼片は葉狀になり白色。花冠は喇叭形で帶橙黃色。楕圓形の漿果を結ぶ

若芽と蕾とを生又は煮食す、但し苦味あり。



11 シロバナコンロンクワ

12 タイワンウコギ（ウコギ科）

（シククルアン）

垣根其他に植栽せられる大形の灌木。

莖は密に分枝し高さ一、五―五米。葉は互生、長柄、三出羽狀複葉で形は種々變化し綠色で白脈がある。花は小形で繖形に密生し黃綠色。果實は球形。

若葉煮食。香味あり肉類に添加す



12 タイワンウコギ

13　マルバダイワンウコギ（ウコギ科）
（ダウンマンコク）

垣根其他に植栽せられる大形の灌木。莖は密に分枝し高さ一—五米。葉は互生、長柄一—五の小葉よりなり、小葉は稍々圓く、緣の白いのが多い。花序、花、其他前者に類す。



13　マルバダイワンウコギ

---

14　ヒメセンネンボク（ユリ科）
（ダウンジユアンジユアン、アンドン）

通常植栽せうれるが林下にも自生する小木本で紅葉品種は観賞用となる。
莖高二—五米。葉は莖の上方に叢生し披針形。花序は頂生、複總狀。花は紫色又は帶黃白色。漿果は紅色。
葉は强靭であるが未開の葉を煮食す。



14　ヒメセンネンボク

15　モミヂバカラスウリ（ウリ科）

（チンププラウ）

山野に自生する蔓生多年生草本。

莖は長さ數米に達す。葉は深く五裂し有毛。花には雌雄がある。果實は長楕圓形で赤色。

葉を煮食す。



15　モミヂバカラスウリ

16　クサトケイサウ（トケイサウ科）

（チムンドウンダン、アカームンチムン）

野原、路傍などに生育する草本で、卷鬚で纏繞する。

莖長二―五米。葉は二列互生し小托葉と長葉柄があり、心形で三裂する。花は腋生し長梗がある。花下の苞三枚は毛狀に細裂する。花瓣曇白色。果實長球狀。

若葉も芽も青酸を含むから必ず先づ煮て用ひる。果實も同樣である。



16　クサトチイサウ

17　ハヒカヅラ（ブダウ科）
（ラコムブラン）

林縁半陰の地に多い纏繞多年生草本。
莖長一―一五米。根は屢々肥厚す、葉は互生有柄長卵形で暗綠色。卷鬚は葉と對立する。花序は二三回分枝し花數多く、漿果は黑色。
若い莖葉を酸味料として他の食品に加へる。



17　ハヒカヅラ

18　フヂマメ（マメ科）
（カチヤンカラ）

通常栽培せられる蔓草で一年生と多年生の品種とがある。
莖長一、五―六米。葉は三小葉からなり卵菱形。花序は腋生し多數の花を穗狀につける。花色紫又は白。莢には三―六の種子があり白、褐又は黑色で、黑點又は白點を混ずるのもある。
若葉若莢を煮食し、種子は煮て食ふか黃粉にする。



18　フヂマメ

19 ツルハグマ（キク科）
（トンバトンバ）

山野林下多濕の地に生ずる肉質草本。
莖長數米、幼部有毛。葉は互生短柄長卵形。花序は側枝及莖端に頂生し多數の頭狀花をつけ屢々下垂す。頭狀花は白黄色。瘦果密毛あり。
若き肉質の枝葉を煮食す但し澁味あり



19 ツルハグマ

---

20 ノゲシ（キク科）
（ドウルゲユ）

山野廢地等に生育する一年生草本
莖は直立し分枝少く高さ三〇—一二五糎中空で稜條があり乳液を含む。主根がよく發達する。葉は不規則に羽裂し葉脚で莖を抱く。花序は花の數が少く黄色で舌狀花からなる。瘦果には白色の冠毛がある
若き部分を煮食する。



20 ノゲシ

## 21　ウスベニガナ（キク科）

（クトウンビジヤンタン）

山野到る所に生育する一年生草本

莖は直立し下方で屢々分枝し高さ一〇—一〇〇糎。主根は深く地に入込む。葉は互生し下方のものは深裂し上方のものは細長くなり、毛があり下面は屢々紫色を帶びる、頭狀花は薄紅、時に白色、瘦果には冠毛がある。

若い莖葉を煮食し、下方の大きい葉は生菜となる。



21　ウスベニガナ

## 22・イヌホホヅキ（ナス科）

（ランチ、テロンメランチ）

野原路傍に自生する一年生草本。

莖は一本又は數本で盛に分枝し高さ一〇—一五〇糎。葉は互生有柄卵形。花序は側生。花は白又は紫色。果實は球形で黑紫色。

若葉、未熟及成熟果實を生又は煮食。



22　イヌホホヅキ

23　カミバウキ（シソ科）
（スラセー、ルクルク）

通常栽培せられる香氣の強い一年生草本。莖は下方で多く分枝し高さ二五―一〇〇糎。葉は對生有柄卵菱形。花序は頂生穗狀で各節に數花を輪生し白色。

若葉を生食す。香氣強い。



23　カミボウキ

24　イモヒメジソ（シソ科）
（クミリ）

通常栽培される一年生草木。莖は傾斜し節から發根する。方柱狀で長さ四〇―一〇〇糎、根に黑褐色の芋を生ずる。葉は對生有柄卵形で稍々皺立つて居る。花序は頂生穗狀で各節に數花輪生し紫色である。

芋を煮食し若葉は生又は煮食す



24　イモヒメジソ

25 ツボクサ（セリ科）

（プガガ、プンガガ）

草原や水際などに生へる多年生草本。

莖は匍匐して長く、節から發根する。葉は各節から一―一〇枚出で長柄を具へ腎臓形である。花は腋生で有柄小形紅色。果實も小さい。

葉を生又は煮食す。花と果實は食べ過ぎると「レウマチ」になると言はれる。



25 ツボクサ

26 エビスグサ（マメ科）

（グレンガンクチル）

原野路傍の雑草

莖は廣く分枝し高さ二〇―一〇〇糎。葉は互生有柄托葉を具へ通常三對の小葉からなる。小葉は倒卵形で左右不等、先端のもの程大きい。花は一―二箇腋生し花瓣は黄色。莢は細長く一〇―一八糎に達する。

若葉及若芽を煮食す。



26 エビスグサ

27 フウテフサウ(フウテフサウ科)

(ママンアントウ、マーマー)

海邊其他に野生し觀賞用としても栽培される。
莖高さ三〇—九〇糎。葉は互生し掌狀複葉で長柄を具へ、小葉は五片倒卵形。梢頭に粘性の總狀花序をつけ白又は紅花を開く。果實は長角、種子は黑色。

若葉を煮食す。



27 フウテウサウ

28 スベリヒユ(スベリヒユ科)

(ゲランパシル)

陽地路傍等に生ずる一年生草本で肉質無毛。
莖長一〇—三〇糎。葉は短柄で互生又は對生し長倒卵形。枝端に小數の小黄花を着け、蒴は上半帽狀をなして離れ、多數の黑種子がある。

根を除き全部を煮食す。



28 スベリヒユ

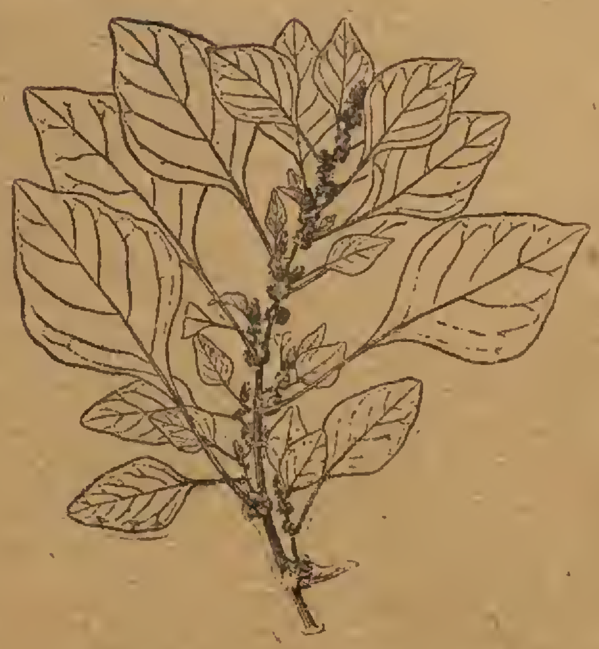
29　ハゲイトウ（ヒユ科）

（バヤムグラチ）

原野路傍痩地等に自生する一年生草本で、色變りのものは栽培される。

莖は上方で多く分枝し高さ一〇—一五〇糎。直根がある。葉は形、色、大さ共變化が多く、互生有柄菱形。花は綠色小形で多數密集し雌雄の別がある。種子は黑褐色。

若い綠葉を煮食す。



29　ハゲイトウ

30　イヌビユ（ヒユ科）

（バヤムエチク）

園圃路傍等に普通な一年生草本。

全草軟弱で高さ三〇糎内外概ね下方で分枝斜上し往々紫褐色を呈する。葉は互生有柄菱卵形。梢上及葉腋に多數の綠色細花を着け、胞果は菱狀楕圓形で一種子を含む

葉及若い莖を煮食す。



30　イヌビユ

31 ツルノゲイトウ（ヒユ科）
（クルマタ、プドク）
原野痩地等に自生する一年生草本。
莖は軟質横臥す。葉は長楕圓形又は倒披針形。
葉腋に數箇の頭狀花序を球形に着け白色の小花を
簇生する。胞果は倒心形。
若き軟部を煮食す。



31. ツルノゲイトウ

32 ハヒゴセウ（コセウ科）
（カドック）
林間陰地に生ずる匍匐草本。
葉は薄く暗綠色卵形。花序は腋生し上半に密生
して圓筒狀の穗をなし白色で雌雄の別がある。
軟部を煮食す。



32 ハヒゴセウ

33　マルバツユクサ（ツユクサ科）
（ルンプー）

路傍瘦地等に生ずる一年生草本。

莖は下部平臥分岐し上半は斜上し下部の數節には根を生ずる。葉は稍々肉質で下部は鞘狀になり卵形又は楕圓形。花は貝狀の苞の上に出で青色。果實は長楕圓形。

若い莖葉を蒸し又は煮食する。



33　マルバツユクサ

---

34　タイワンイボクサ（ツユクサ科）
（ルンプーレダー）

稍々濕つた陽地又は半陰地に生ずる一年生草本。

莖の下部は四方に分岐して地上に平臥し各節から鬚根を出し、上部は斜上する、葉は二列互生線狀披針形で下方は鞘になる。上方の葉は急に短くなる。花瓣は淡紫色、葯は青色。果實は長楕圓形で數種子を含む。

葉を生又は煮食す



34　タイワンイボクサ

35 ワセヲバナ（禾本科）

（ブローテベラウ）

野生の甘蔗で原野至る所に繁生する。

莖は多數分蘖、直立密生し、葉は長線形で縁には細鋸齒がある。花序は複總狀で白色。

若い芽と未出の花序を生又は煮食する



35 ワセヲバナ

36 センニチモドキ（キク科）

（ポコグタン、クラブ）

濕地淺水等に生育する一年生草本

莖は上方で澤山枝を分け、葉は對生、短柄、廣披針形、有毛。頭狀花は長柄を具へて散生し、多數の管狀花からなり褐色。瘦果は黑色。

若い葉莖を生又は煮食す。生食すると辛味がある



36 センニチモドキ

37 シナタウコギ（キク科）
（ジヤロンガンブザー）

原野水邊林下などに生育する一年生草本
莖は屢々分枝し方柱狀で微毛がある。葉は對生し數個の小葉に分たれる。舌狀花は白乃至薄黃色、管狀花は褐色。瘦果は黑色で衣服に着く。
若い葉莖を煮食す。



37 シナタウコギ

---

38 シソクサ（ゴマノハグサ科）
（ブレミウタン、クラクラ）

水際沼澤に生育する草本。
莖は多汁、葉は對生又は三輪生、披針形で白點がある。花序は腋生又は頂生し、花は各小節に對生し帶紫色である。
軟部を生又は煮食す。テレビンの香がある。



38 シソクサ

39　ジヤワゼリ（セリ科）
（シエルム、ピオポ）

水邊池溝等に生ずる多年生草本、セリに似てゐる。

莖は中空で高さ一〇—一五〇糎、葉は互生し長柄があり羽狀又は複羽狀、小葉は略卵形で鋸齒がある、花序は複繖形。花は小さくて白色、

幼莖を生又は煮食す。



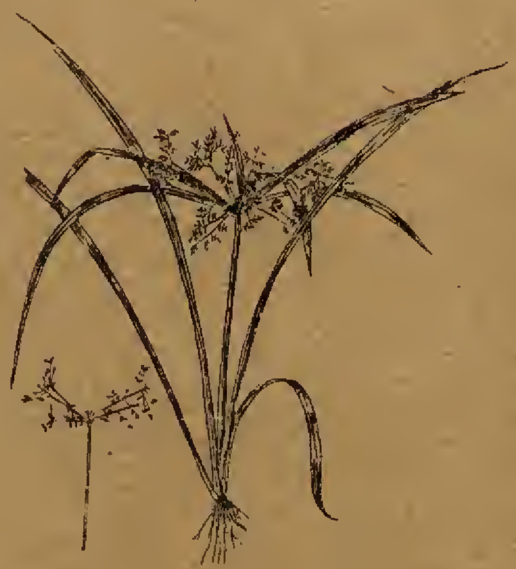
39　ジヤワゼリ

40　オホノシスゲ（スゲ科）
（ルンプー）

山野多濕の地に生ずる多年生草本。

莖は三角柱狀で根元で多數分蘖する。葉は根元と花序の下の所に澤山出る。花序は不規則繖形に分枝する。

若い葉を生食す。



40　オホノシスゲ

41 ヨウサイ（ヒルガホ科）

（カンコン）

水邊淺水等に生育する多年生匍匐草本莖は中空多汁で節々から發根し、葉は互生長柄あり心形乃至長卵形。花は葉腋から一—七個出で石竹色である。

若い莖葉を生又は煮食す、緩下劑の効がある。



41 ヨウサイ

42 ミヅキンバイ（アカバナ科）

（泰）ガンプーイ

池溝水中に生ずる柔軟な多年生草本。地下莖は水面下を匍匐し節々から水上莖を出し、尚ほ各節から下方へ根を出し、上方へは白い海綿質の呼吸根を出す。葉は互生、有柄、倒披針形。花は黄色。蒴果は四柱狀で種子多數。

若き莖葉を煮食す。



42 ミヅキンバイ

43 ミヅオジギサウ（マメ科）

（クマンアエル）

水面を匍匐する草本で葉は觸はると閉ぢる。水上の莖は皮層が海綿質になる。葉は二回羽狀複葉で黄綠色。花序は柄端に球狀をなし黄色の雄蕋密生する。

莖葉を煮食す。



43 ミヅオジギサウ

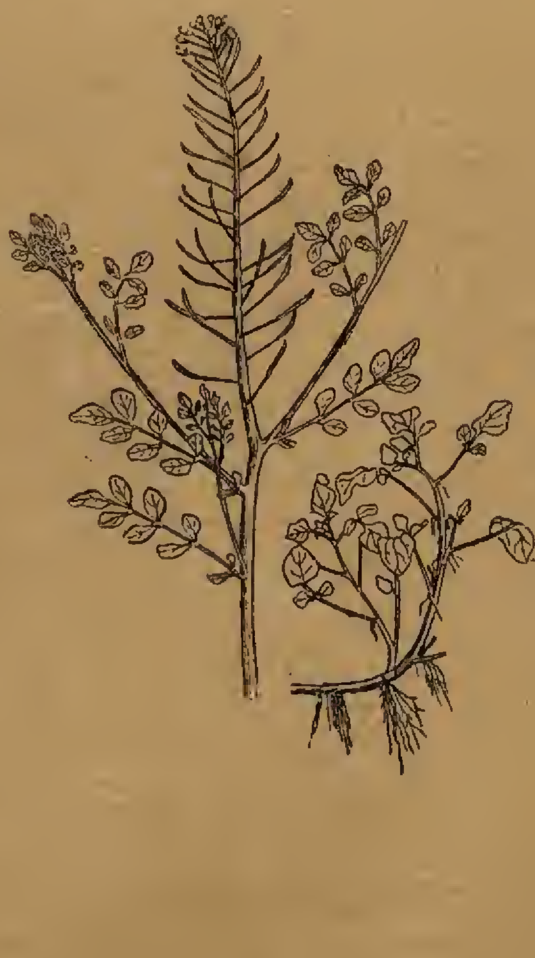
---

44 オランダガラシ（ナタネ科）

（スラダアエル）

清水に生育する多年生草本。莖は中空で匍匐斜上し各節から根を出す。葉は二列互生し數個の小葉に分たれ屢々黄綠色である。花を着けることは稀である。

若き莖葉を生又は煮食す



44 オランダガラシ

45　ホテイアフヒ（ミヅアフヒ科）
（クムリントルウル）

水上に浮生する草本。

莖は匍ひ其節々から上方に葉を叢生し下方には澤山の鬚根を出す、匍枝を出して増殖する。葉は廣心形で葉柄は中部が膨れて氣胞を作り浮ぶのに役立つ。花序は總狀で花瓣は淡紫色。通常結實しない。

若芽、花序、葉を煮食す。生食すれば蘞味がある。



45　ホテ・イサウ

---

46　コナギ（ミヅアフヒ科）
（クラヤル）

淺水に生ずる一年生草本。

莖は一株から五－六叢生し各々一枚の葉をつける。葉は長柄を具へ心形。花序は葉よりも短く總狀。花瓣は暗紫色。莢果を結ぶ。

根を除いた全部を生又は煮食す。



46　コナギ

**47　キバナオモダカ（ブトマ科）**
（ジンジル）

淺水に生育する多年生草本。
葉は長柄を具へ水中の莖から散生して立つて居る。葉片は廣卵形。花序は腋生し、開花中は立つてゐるが後傾斜する。蕚は黄綠色で永存するが花瓣は薄膜狀で早晩萎縮する。
若い葉、葉柄及花序を養食す。



47　キバナオモダカ

**48　オモダカ（オモダカ科）**
（ウビクラヂ）

沼澤池溝等に生ずる多年生草本。
葉は地下の莖から叢生し長柄を具へ、葉片は箭形である。花莖は葉の間から出で直立し白花を輪生する。花は單生で下方に雌、上方に雄花がある。果實は球狀に密集し綠色である。株元から泥中に小枝を伸し其先端に塊莖を生ずる。其大小は變種により夫々異なつて居る。葉、葉柄及び塊莖を養食す。



48　オモダカ

49 クログワキ（スゲ科）

（プペレタン、チケー）

沼と半鹹水岸に生ずる多年生草本。

莖は綠色で葉の様に見え、地下から叢生直立し中空で多數の氣室に分たれて居る。葉は綠莖の根元薄膜鞘狀をなして居る。地下莖は多數の走出莖を出し其先端に新株又は多肉な球莖を作る。綠莖の先端に花序を生ずる。

球莖を賞食す。

50 コウトウデンジサウ（デンジサウ科）

（瓜哇）スマンギ

池沼に自生する多年生草本。

地下莖は匍匐し各節から上へ一枚の葉を出し下へは根を出す。葉は通常水面に浮び四小葉からなり稍々田の字形をなす。葉柄の元に近く嚢果を着ける。

葉を賞食す。

以上



49 クログワキ



50 コウトウデンジサウ

昭和十九年一月

昭南博物館
昭南植物園
編